



横浜国立大学教育学部附属
鎌倉小学校
根本 哲弥

第3回
Jump!

板書を考える

1. 板書の機能とは?

3回にわたり掲載される『道徳教師用指導書 活用術!』。最終回では、ねらいに向かって広く深く考えていくための板書について考えていきたいと思います。

第2回で取り上げた発問や問い返しは「話すこと」が主となりますが、板書は「書くこと」が主となります。まず、「書くこと」の機能について右の①～⑥に整理してみたいと思います。

これらの中でも、特に道徳の授業における板書で重要な機能を果たすものが「③ 思考」だと思います。子どもたちの思考を広げたり深めたりするための効果的な板書を大切にしていきたいですね。

「書くこと」の機能

- ① 記録…忘れないための記録としての機能
- ② 練習…書いて練習することで覚えるための機能
- ③ 思考…言葉や絵、図などを用いて考えを整理するための機能
- ④ 評価…「どのようなことを考えたか、わかったか」などを知るための機能
- ⑤ 表現…発表だけでなく、書くことで自分の考えを表すための機能
- ⑥ 関連・継続…他教科や生活体験などつなげたり、今までの授業とこれからの授業をつなげたりする機能

2. 板書、どうやってつくれるの?

① 言葉だけでなく、絵や図を用いる

板書は、発問と同じく、授業の核になる方法の一つです。そして、板書は子どもたちの発言を単に記録するだけのものではなく、子どもたちの発言を道徳的観点から整理し思考を手助けするようなものでありたいですね。そのためには、言葉だけではなく、絵や図を積極的に用いることが大切です。これは、他教科でも同じことがいえるのではないのでしょうか。たとえば、理科の実験の仕方、算数の問題の解き方。これらを字だけで説明した板書だったとすると、ゾッとませんか…?

② 板書の種類をつくって考える

指導書に示された板書は、前述した内容を踏まえてつくられているのですが、思うように進まないと迷ってしまったら、発問づくりと同様に板書の種類をつくって考えることをお勧めします。下の図から考えていきましょう。

9種類に分けて紹介していますが、それぞれには特徴があります。子どもたちの思考の広がりや深まりにつながる板書にするためには、それぞれの特徴を理解し、教材や内容項目にあった板書を考えていくことが重要です。また、発問や問い返しと板書を連動させることで、より効果を高めることができます。それでは、いくつか紹介していきたいと思います。

考え方の種類	① 数字や表情で考える -100 ~ 0 ~ 100	② 山や円を使って考える 	③ 色や矢印を使って考える 赤 うれしいこと、よいこと 青 かなしいこと、わるいこと 黄 その他 矢印の太さや向き	④ グラフを使って考える
	⑤ 階段を使って考える 	⑥ 言葉をつなげて考える 	⑦ 見方を変えて考える 	⑧ 図にして考える①

① 数字や表情で考える

「どれくらい(程度)」や「どんな気持ち」などを考えるときに有効です。同じ笑顔でも楽しそうな笑顔や意地悪な笑顔など、笑顔の種類は多様なので、その違いを問うことで理解の深まりを図ることができます。

② 山や円を使って考える

「道のり」や「気持ちの中心」、「広がり」を考えるときに有効です。

山は、頂上(目標)に行くまでの道のりをイラストに書き加えて考えるときに、円は、自分とのつながりについて、身近な人(もの)から遠い人(もの)への広がりについて考えるときに、使用することができます。

③ 色や矢印を使って考える

「どこからどこへ」や「つながり、連続性」などを考えるときに有効です。また、「どんな矢印だろう?」と問い、矢印の色を変えたり、点線にしたりすることで「思いの強さ」を考えることもできます。

④ グラフを使って考える(円、帯、折れ線、曲線など)

「道のり」や「どれくらい(程度)」を考えるときに有効です。折れ線グラフや曲線は、特に時間の流れによる変化などをおさえた教材や内容項目に対してより効果を発揮します。グラフの上下している箇所を明らかにしたり、上を向いた理由を考えたりすることで、行為を生んだ心について考えることができます。

⑤ 階段を使って考える

「段階(レベル分け)」を考えるときに有効です。目標に向かって、どのような段階(行動面や精神面など)があるかを分析することができます。特に「個性の伸長」、「希望と勇気、努力と強い意志」、「真理の探究」などで効果を発揮することが期待できます。

⑥ 言葉をつなげて考える(ウェビング)

「つながり」や「広がり」を考えるときに有効です。一つの事象や人物などに対して、直接的に関わっている人(もの)や間接的に関わっている人(もの)を考えることができます。広がりを理解することで量的な理解を図ることができます。たとえば、「生命の尊さ」や「感謝」では、ウェビングを用いることで、「一人の命やものに対して、たくさんの人が関わっているんだ。それはすごいな。」と理解を深め、心情を高めることが期待できます。

⑦ 見方を変えて考える(立方体)

「さまざまな見方」を考えるときに有効です。一つの事情や人物などに対して、立場を変えて考えたり、歴史的背景など、視点を変えて考えたりすることで見方を広げることができます。

⑧ 図にして考える①(ベン図、三層構造図)

ベン図は、同一人物の心情や複数の登場人物などの共通点と相違点を明らかにするときに、三層構造図は、行為行動の理由について、表層から深層まで深く考えるときに有効です。「仕方なく(他律的)」、「～すべき(義務的)」、「～したい、～せずにはいられない(自発的)」などを三層にしたり、ときには二層や並列で表したりするなど、子どもの発言にあわせて柔軟に取り入れたいですね。

⑨ 図にして考える②(座標軸)

情報を整理するときに有効です。縦軸、横軸を「ある」と「ない」、「+」と「-」などとし、「A～Dのどれにあてはまるか」、「A～Dのどれがよいか」と問うことで、分析しながら考えを深めていくことができます。

このほかにも板書の種類はさまざまあるでしょうし、ときには子どもたちがオリジナルとして生み出すこともあります。しかし、最も大切なことは、満足のいく板書ができたとしても、満足の中心が「子どもたちにとって効果的な思考の手助けとなり、ねらいに向かって考えを広げ深めることができたか」だと思います。考えることの楽しさや、広がりや深まりが生まれる喜びを感じられる板書を目指したいですね。

3. 本立ちて、道生ず

3回にわたって掲載された『道徳教師用指導書 活用術!』。読み進めていただき、ありがとうございます。最後に、私が諸先輩の先生方から教わり、大切にしている言葉を紹介して終わりにしたいと思います。

「本(ねらい)立ちて、道(方法)生ず」
「授業は特定の教師と特定の子どもがつくる作品である」
「一期一会の道徳授業」

これからもみなさまと一緒によりよい授業を目指していきたいと思います!